

J A 帯広大正(森和裕組合長)は14日、大正農業者トレーニングセンターで第75回通常総会を開いた。2021年度取扱高は前年度比13.9%増の175億300万円と過去最高を記録したことを報告。主力のジャガイモの収量は平年を下回ったものの、全道的な不作で平均単価が上昇、前年を上回る取扱高となった。

21年度の品目別取扱高は、日照時間が長かったことなどから小麦は前年度比36.2%増の14億2,300万円。ジャガイモは記録的な干ばつや高温の影響で収量は落ちたものの、2年連続の単価高で42.4%増の46億7,500万円。

長いもが平年を上回る収量だったものの、大根の取扱数量が前年を大きく下回るなどしたため、野菜は11%減の36億2,700万円だった。豆類は7.5%減の7億9,100万円、ビートが14.4%増の15億9,500万円。当期余剰金は5.1%増の3億4,957万円だった。

22年度は、事業方針に第9次農業振興5カ年計画および農協運営計量計画の策定などを盛り込んだ。また、役員選任で元帯広市職員の阿部信一氏を監事に選任した。

森組合長はあいさつで、今年度について、不透明な国際情勢の影響や農業を取り巻く環境に言及、「社会対応を誤らないよう正しい道を模索しながら組合員の苦勞に報いられるよう事業運営に取り組んでいく」と語った。

新組合長に高橋孝二専務理事 J A さつない

2022年5月21日(土)

【幕別】J A さつない(正組合員168人)は20日、理事会を開き、新組合長に専務理事の高橋孝二氏(65)を選任した。

高橋孝二氏は2010年から理事、16年から専務理事。高橋氏は「自分一人では何もできないので役員、職員との協力を重視したい」と抱負を述べた。

退任した高橋秀樹氏は16年から2期6年間、組合長を務めた。



高橋孝二氏

販売高1.3%増 187億円 生乳、乳牛落ち込む J A 新得町

2022年5月21日(土)

【新得】J A 新得町(太田眞弘組合長、組合員141人)の総会が20日、同J A で開かれた。2021年度の農畜産物販売取扱高は、コロナ禍で生乳や乳牛販売が落ち込んだものの、前年度比1.3%増の187億7,773万円だった。任期満了に伴う役員改選が総会後の理事会で行われ、太田組合長を再任した。

農産物の販売取扱高は、小麦やビートの収量が多く小麦は品質も高かったことから16.8%増の14億4,377万円。畜産物は0.1%増の173億3,396万円だった。

コロナ禍による生乳生産抑制や離農などで生乳は3.3%減の48億4,561万円、乳牛販売も14.9%減と大きな影響を受けた。一方で、肉用牛の取り扱い頭数は730頭増の3万825頭、金額では3.4%増の109億704万円と伸びた。

経常利益は1億9,518万円を確保し、当期末処分剰余金は1億8,577万円。

総会には、書面議決124人、本人14人が出席。太田組合長は「安全安心で高品質な農畜産物の生産体制の確立、生産性向上による農業所得の確立を目指していく」とあいさつした。

組合長以外の役員は次の通り。(敬称略)

▽専務=湯浅恵次(新)

▽常務=五十嵐良和(新)

▽理事=齊藤清、野沢幸義、武藤幸太(以上再) 伊藤健悟、千田弘樹、藤田孝良(以上新)

▽監事=山田保彦(常勤、新) 須甲徹、藤岡祐也

(以上再)